

カラフトヒョウモンなど、名前を聞いただけでまず出会いなどありえないチョウとして、初めて父親とデパートに行って購入してもらった横山図鑑をただ眺めるだけであったが、社会人となってから北海道上川郡愛別町というところの中学生と郵便による蝶標本の交換をするようになって、いきなり入手可能なチョウとなり、1996年に初めて本種が野外で飛びかう様子を目にしている。

June 24, 1996 北海道愛別町

1972年頃、蝶友の一人に北海道愛別町の中学生がいて、エゾシロチョウの蛹やエゾヒメギフ、カラフトヒョウモン、ホソバヒョウモンなどを送ってくれたことがあり、6月24日旭川からJR上川線で愛別に向う。車窓は、旭川市郊外から早くも広大な北海道の風景が展開しほとんどが畑地あるいは農場という感じだが、草花が多い樹林地帯が増えてくると、もうどこで降りても蝶がたくさん遊んでいるような気がしてくる。実際にJR愛別駅に降り立つと、どこにいけばいいのか皆目見当がつかない。蝶がいそうな山方向へと行きたいが徒歩では効率がわるいのでなんとかレンタサイクルを確保したく街の中心地にむけて登校生の後をついて歩く。国道を横切ってゆるやかな坂道を下ると愛別の街に入る。自転車屋の看板が見えるがレンタル業の看板はない。ちょうど自転車の修理をしていた気のやさしそうなおやじさんに、蝶採りに走りまわるための自転車を借りたいが、と相談すると、すぐには取出せそうにない店内の入組んだ在庫の群からミニサイクル1台を引っ張り出してくれて、蝶がいるかどうかは分からないが最近できた「愛別ダム」まで10kmぐらいだから、一見の価値はあるよ、と勧められ、いよいよ自由行動に移る。

まずはJR愛別駅方向にもどって、近くにみえる山すそを探索する。ミニサイクルなのでなかなか距離が伸びないが、ぜいたくはいわない。農家が散見できる道をどんどん進むとやがて長い坂道が左にカーブして登っていく。幸い車の数が少ない坂道をのんびりと自転車を押しながら道路脇ガードレール下の草むらに注意していると、ひらひらとカラフトヒョウモンが現れる。ガードレールから距離がある草むらの真下には周囲にノアザミ類の花も咲く沼があり、人が入り込める環境ではないため蝶にとっては格好の遊び場となっているようだ。右手には両側にカラマツ林が連なる平坦な林道が分岐しており、左上は砂利の多い広場から黒い土の道が上り坂となって小高い森に入り込んでいる。ここでは蝶がいそうな森をめざして左の坂道を登ってみる。ひょうきんなクロヒカゲが汗をかいた腕や頭にとまったりすることなく進むと道が2つに分かれる。右手はうす暗いカラマツ林。左手奥には伐採あとの日当たりもしい開けた斜面が見える。昔、高知の梶が森でウスバシロチョウのゆるやかな飛翔を楽しんだときの環境によく似ていて、いかにもヒメウスバシロチョウが出てきてもおかしくない。しばらく道路からこの斜面を観察していると、予測どおりふんわりと純白のヒメウスバが現れる。ノイチゴの白い花を転々と吸蜜して回っているようだ。雲が切れて晴間



June 8, 1974  
北海道愛別町  
カラフトヒョウモン  
leg. Yoshinori Okada



June 9, 1971  
北海道愛山溪  
カラフトヒョウモン  
leg. Yoshinori Okada



May 28, 1972  
北海道愛山溪  
カラフトヒョウモン  
leg. Yoshinori Okada



May 28, 1974  
北海道愛別町  
カラフトヒョウモン  
leg. Yoshinori Okada

が斜面全体にひろがると、どこにいたかと思えるほど急にヒメウスバの白が増え、足場のよくない斜面草地で白いライダーとの追っかけっこを楽しむ。走りつかれて道路上にもどり一息ついていると、カラフトヒョウモン 2 頭がじゃれあうように斜面の林縁から飛出てくる。おもわずネットを一振して2頭ともゲット。北海道にしかない蝶を初めてみずからの手で捕える感触は格別である。林道は赤土の色を濃くしてだんだん下り道となって深い林につながっているが、林の奥に蝶はいない。あらたに新鮮なカラフトヒョウモンが斜面の林縁から風にのって現れ、道路上を高く舞いあがって斜面とは反対側林の奥へと飛び去る。木々の間をよくみると遥か下方に小さな沼が光っている。どうやら、登ってくる途中で左手にみたあの沼のようで、やはりカラフトヒョウモンにとって絶好の遊び場だとの推測があたっていた。